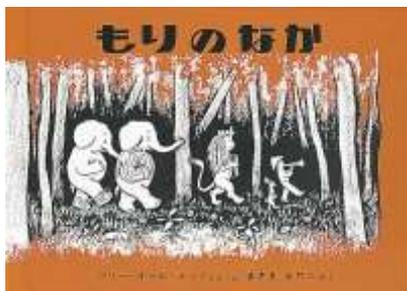


令和5年度春 子ども図書館おすすめ本

★^{ようじ}幼児におすすめの本^{ほん}★

★『もりのなか』

マリー・ホール・エッツ/ぶん・え ^{ふくいんかんしょてん}まさきりこ/やく 福音館書店



おとこのこが、ラッパをもつてもりへいきました。ラッパをふくと、ひるねをしていたライオンがきがついて、かみをとかすと、いっしょにさんぽについてきました。つぎに、みずあびをしていた、ぞうのこどもも、せーたーをきて、くつをはいて、さんぽについてきました。くまや、さるや、いろんなどうぶつもついてきました。それから、みんなであそんで、そして――。

モノクロのせかいが、^こ子どもの^{そうぞうりよく}想像力と心に^{なが}あたたかくよりそう、^{えほん}長くよみつがれた絵本。

★『こぎつねコンチ』

^{なかがわり}えこ ^{やまわき}ゆりこ ^{しよてん}中川李枝子/さく 山脇百合子/え のら書店

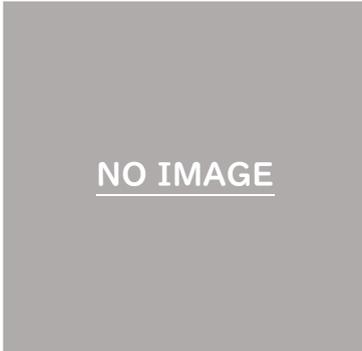


こぎつねコンチは、おかあさんとおとうさんと、はらっぱのちかくにすんでいます。あるはるのひ、おかあさんは^{おお}大きなポケットのついたエプロンをつくっていました。コンチも^{おお}大きなポケットがほしいという、おかあさんがつくってくれたのは、ふつうのポケットではなく、コンチはとてもきにいらいます。コンチはそのポケットでなにをしたでしょう？

ほかに、いちごのおはなし、たなばたのおはなし、きしゃごっこ、おおゆきのおはなしなど、1ねんかんのたのしいおはなしです。

★『たねがとぶ』

か い の が え さ く も り た た つ よ し か ん し ゅ う ふ く い ん か ん し ゅ て ん
甲斐信枝/作 森田竜義/監修 福音館書店



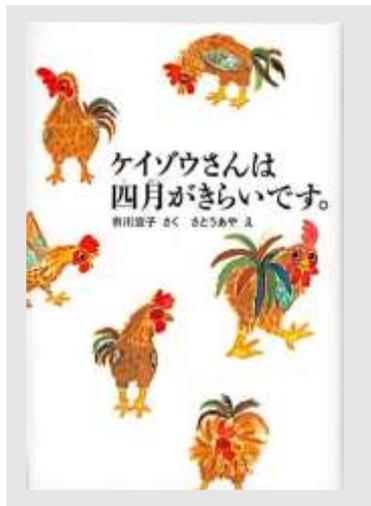
はるのくさが、はなのあとに、“み”をつけました。みちばたのくさ、あきちのくさ、いろいろなくさが、みをつけます。みのなかには、たねがはいっています。みたことがありますか？ たねは、くさのこどもです。たねは、あたらしいばしょへたびをします。わたげになって、とんでいたり、さやがはじけて、とんでいたり……。そこでまた、めをだします。とばないたねは、どうしているのかな。たくさんのくさのたねのふしぎなせかいを、きれいなえと、やさしいことばで、おしえてくれます。



しょうがっこう ねんせい ほん
★『小学校1・2・3年生におすすめの本★』

★『ケイゾウさんは四月がきらいです。』

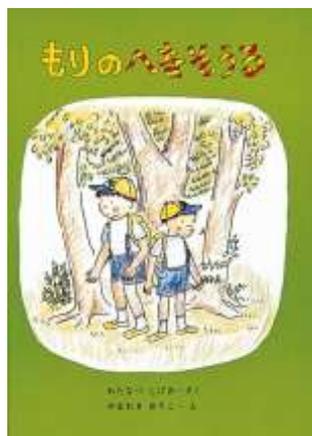
いちかわのぶこ さく さとうあや/絵 ふくいんかんしよてん
市川宣子/作 さとうあや/絵 福音館書店



ニワトリのケイゾウさんは、ほいくえんにある
小屋にすんでいます。三月まではひとりでした
が、四月からはうさぎのみみこがやってきた
ので家がせまくなりました。みみこはまっし
ろでふわふわなので、こどもたちにも大人気。
エサだってみみこにばかりあげるし、まんぷく
になったみみこのいびきはうるさいしで、ケイ
ゾウさんのくらしはがらりとかわってしま
います。はたして、ケイゾウさんはみみこと仲良
くできるのでしょうか。

★『もりのへなそうる』

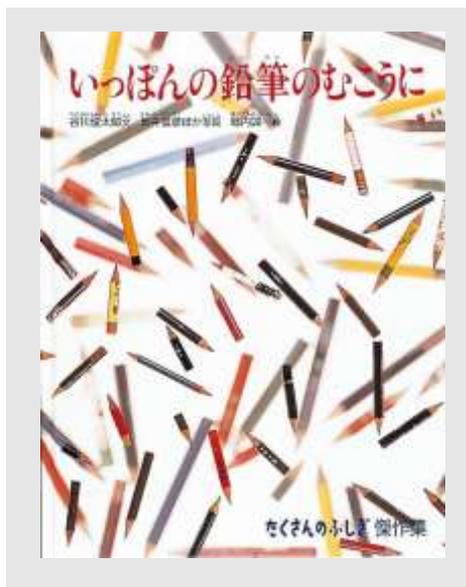
わたなべしげお さく やまわき ゆりこ え ふくいんかんしよてん
渡辺茂男/作 山脇百合子/絵 福音館書店



てつたくんとみつやくんのきょうだいは、あ
る日、森へたんけんに行くことにしました。リ
ュックサックにおべんとうのサンドイッチをつ
めて、やきゅうぼうをかぶってでかけます。森
の中をすすんでいくと、あかときいろのしま
もようをした、おおきなたまごがありました。
いったいなんのたまごだろう。ふたりはくび
をかしげます。つぎのひ、おなじところへきて
みると、たまごは見当たりませんでした。けれ
どもそこには、ふしぎなかいじゅう・へなそう
るが立っていたのです——。

★『いっぽんの鉛筆のおこうに』

たにかわしゆんたろう ぶん さかのがひこ しゃしん ほりうちせいいち え ふくいんかんしよてん
谷川俊太郎/文 坂井信彦ほか/写真 堀内誠一/絵 福音館書店



みなさんは、鉛筆がどのように作られているのか知っていますか。

たとえば、スリランカの鉱山で鉛筆の芯のともになる、黒鉛を掘る人。アメリカの山の中でヒノキの木をきりたおす人。その丸太を運ぶ人に、木材へ整える人…。一本の鉛筆がみなさんにとどくまで、実は他にもたくさんの方が関わっているのです。

この本ではそんな人々の生活を紹介しながら、鉛筆がどうやってつくられているのかを絵と写真で説明しています。

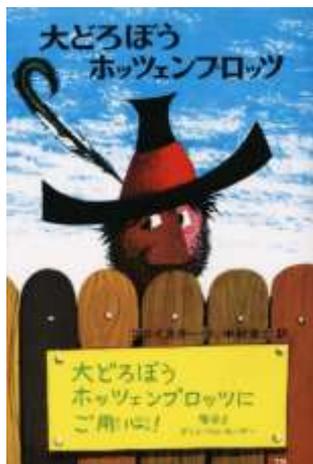
ぜひ、自分の鉛筆を思いうかべながら読んでみてください。



★小学校4・5・6年生におすすめの本★

★『大どろぼうホッツェンプロッツ』

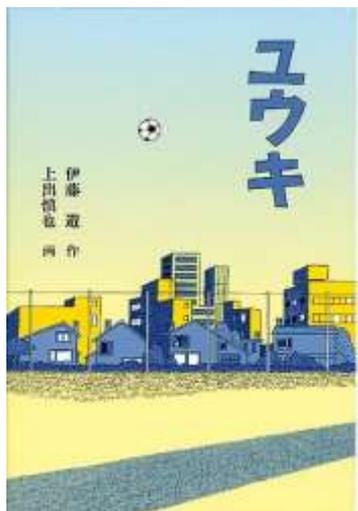
プロイスマー/作 トリップ/絵 中村浩三/訳 偕成社



二人の少年、カスパールとゼッペルはとてもなかよし。ある日、おばあさんが、大切なコーヒーひきを、有名な大どろぼうホッツェンプロッツにぬすまれます。二人はコーヒーひきを取り返そうとしますが、森の中のホッツェンプロッツのすみかであつかまってしまいます。その時二人はぼうしを取りかえて入れかわります。カスパールはゼッペルとして、怖い大魔法使いに売られてめしつかいになってしまいますが、そこにはひみつがあって…。二人はコーヒーひきを取り返して、ぶじに帰れるでしょうか？ハラハラどきどきユーモアいっぱいの物語。

★『ユウキ』

いとうゆう かみでしんや
伊藤遊/作 上出慎也/画 福音館書店



サッカー少年、ケイタは、小学校に入学してから三人の友だちに出会った。三人とも転校生で、名前はみんな「ユウキ」。三人ともまた転校していき、ケイタには思い出と痛みが残った。6年生になって、転校生が「ユウキ」だったらぜったい友だちになると思っていたら、本当に「ユウキ」という名の転校生が来たが、それは女の子だった。こんどのユウキはふしぎな少女で…。やがて、ケイタはこれまで出会った「ユウキ」たちの気持ちを理解していく――。

★『おじいちゃんは水のおいがした』

今森光彦/著 偕成社



びわこ琵琶湖の近くの川のほとりに、さんごろう三五郎さんというおじいちゃんがあります。三五郎さんは、木舟きぶねにのって、川で自分の家で食べる分だけの魚をとり、川底かわそこのそうじをします。三五郎さんのすむ町には美しい川がながれています。町には、川とつながっている“かばた”という小さな小屋があり、コイがおよいでいたり、とうめいな水がわき出ています。三五郎さんたちは、その水をくらしに利用りようしています。使われた水は川底のコケなどで濾過ろかされ生き返ります。全ての生きものたちの水である水を大切にしているくらし方が、写真とことばから伝わつたってきます。

